

## 平成29年度 白鳩チルドレンセンター八雲中 事業報告

### 1. 概要

#### ①運営報告

- 守口市では保育料無償化の為、他市からの転入や、市内においても保育を希望する利用者が増え、当園でも昨年に比べ待機人数が約1.5倍に増えてきましたが、地域の利用者や兄弟で入園を希望する保護者が入園できないなど本来の地域ニーズに対応できていないのが現状です。
- 「一日の教育・保育の流れ」を見直し周知徹底することを目標に園全体で取り組みました。特に、昨年度末に白鳩チルドレンセンター東大阪での保育実習で学んだことをもとに、乳児保育の保育形態や実施方法を見直しました。
- 今までクラスリーダーの経験のない中堅保育士をリーダーとして配置したことで、仕事に対する責任意識が向上し、園全体が活性化されたように思います。しかし当初計画していた短時間勤務の職員や派遣職員に保育を伝え人材育成を行うという点では、次年度に課題が残りました。
- 今年度より、守口、門真、寝屋川、四条畷市の幼稚園、認定こども園が合同で参加する就職フェアが開催され、園見学後、3名の学生の就職が決まりました。
- 園隣地広場が売却されたことにより、二次避難場所が変更となったため、平成30年度に向けて「消防計画」の見直し変更を行いました。また、災害時の避難口や遊具の移設撤去工事を行い、それに伴い、園庭の環境整備や運動遊具の購入など当初の計画外の支出もありました。

#### ②定員 129名

1号認定 17名（定員15名）

2号認定 75名（定員63名）

3号認定 62名（定員51名）

合計154名

#### ③開園日数

293日（日曜、祝日及び12月29日から1月3日は休園） 教育週数 39週

#### ④開園時間 平日7:00～20:00 土曜日7:00～18:30

#### ⑤保育時間

##### ★2号 3号認定児

平日	早朝保育	7:00～8:30	土曜	早朝保育	7:00～8:30
	通常保育	8:30～16:30		通常保育	8:30～16:30
	延長保育	保育短時間児 16:30～20:00			16:30～18:30
		保育標準時間児 18:00～20:00			16:30～18:30

★1号認定児

平日 早朝保育 7:00～ 9:00  
通常保育 9:00～13:30  
預かり保育 13:30～20:00

⑥職員数

園長 1名、 主幹保育教諭 2名、 看護師 1名、保育教諭 16名  
障がい児加配 3名  
子育て支援センター事業 保育教諭3名 延長保育事業 保育教諭2名  
一時預かり事業 保育教諭1名（パート保育教諭1名）  
預かり保育教諭 保育教諭1名（パート保育教諭1名）  
その他保育補助 1名(無資格)  
学校内科医・学校歯科医各1名（年各2回検診実施）学校薬剤師1名（年2回検査実施）

2. 教育保育運営

①教育・保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは子どもの個性、人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②教育・保育方針

- 子ども達がいきいきと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として「生きる力」を育む。
- 保護者との信頼関係を築き、安心して預けられる教育保育の場を提供する。
- 地域における子育て支援のため、教育保育に関する相談や助言の役割を果たす。

③教育・保育目標

毎日を生き生きと活動できる子ども  
友達と遊ぶのが大好きな子ども  
いろいろな事に興味や関心を持ち心豊かにかかわる子ども

④クラス体制

(3号認定)

0歳児 12名 保育教諭4名 看護師1名  
1歳児 24名 保育教諭4名  
2歳児 26名 保育教諭4名

(2号認定) (1号認定)

3歳児 27名 5名 保育教諭3名 (うち加配保育教諭1名)

4歳児	23名	6名	保育教諭2名（うち加配保育教諭1名）
5歳児	25名	6名	保育教諭2名（うち加配保育教諭1名）

#### ⑤教育・保育内容

- 乳児クラスでは、子どもの一人ひとりの生活リズムに合わせて、「一日の保育の流れ」の見直しを行いました。たくさん体を動かし遊ぶことで、しっかりと食べ、自立睡眠につながるなど年度途中より子ども達の様子もかわってきました。
- 前日の脳内ストレスを発散するために行っている「朝の意味ある運動」では、クラス同士で連携を取りながら、計画的に進める事が出来ました。ただ、登園の遅い子どもについてはその機会もなくなってしまったため、保護者に朝運動することの大切さについて伝えているところです。
- 12月以降は広場、また園庭の一部が使用できなくなったため、子ども達の体力や運動能力が低下しないように、公立幼稚園の園庭やコミュニティーセンターの体育館などを定期的に利用して運動を行いました。また、ホールでも安田式遊具のエーマットなどを利用して各年齢発達にあったサーキット運動に継続して取り組めるようにしました。
- 2階ホール横にある空きスペースを利用してごっこ遊びや、絵本など少人数の子ども達が落ち着いて過ごすことが出来るコーナーを作りました。乳児クラスの子も達だけでなく、雨天時など、幼児クラスの子も達も小グループで楽しむ様子が見られます。
- リトミックの基本動作について研修で再学習し、子どもの発達に合わせた関わりや、職員の動きなど、自園での取り組みの見直しを行いました。特に乳児のリトミックについて、今後重点的に取り組んでいきたいと思えます。
- 教育・保育要領の改訂に伴い、法人各姉妹園の園長、副園長、主幹保育教諭が定期的に勉強会を行い、全体的な計画の編成を行いました。

#### ⑥家庭との連携

クラス懇談会（年2回）個人懇談会（年1回）就学前個人懇談会（1回）、給食参観（年1回）  
保育参加（幼児年2回）（乳児年1回）

- 早朝保育を利用する0. 1. 2歳児クラスの子も達が増えたため、一人ひとりの子どもの生活リズムや状況について、職員間で情報共有できるようにしました。
- 4歳児で行われる5歳健診についての結果を踏まえながら、継続して関係機関（保健センター）（わかすぎ園）と連携する機会が増えました。同時に就学を見据えた取り組みを見直していくきっかけともなっているため、保護者との話し合いも積極的に行っています。
- 日々行っている保育の意図や、子どもの育ちについて、連絡ノートや、送迎時の対話、お便りの他、写真掲示、スライドショーなど保護者が理解しやすい情報や形で伝えました。

#### ⑦人材育成

- 「一日の教育・保育の流れ」について、保育の現場を確認しながら周知徹底できるよう取り組みました。時間的な流れや子どもへのアプローチの仕方などはある程度理解はしているものの、子どもを観察する力や保育の丁寧さなど課題も残っています。次年度、中心となっていた職員の異

動もある中、短時間勤務の職員や派遣職員も含め、職員全体で「一日の教育・保育の流れ」の徹底に取り組んでいきます。

- 年度途中より、リーダー職員、中堅職員が、白鳩チルドレンセンター東大阪で、リトミックの基本的な動きについて学びました。学んだことを継続して行っていくことが自園の課題であるため、計画の見直しや、活動後のミーティングなどリーダーが中心となり取り組みました。次年度も引き続き取り組んでいきます。
- 「安田式遊具を用いた運動遊び」「石井式漢字教育」「乳幼児のふれあい遊び」など講師を招き、園内研修を行い、知識や技術の習得に努めました。
- 個別研修計画に基づき、園外（守口市こども部、私立認定こども園会、日本保育協会、大阪府社会福祉協議会など主催）の研修に参加し教育・保育の質の向上に努めました。

#### ⑧地域の実態に対応した事業

- 地域子育て支援センター事業（センター型）活動回数、計256回、利用者3841名
  - ・今年度より子育てに不安をもち、支援が必要な保護者を対象にした講座「チャットイー」を年3回開催し、15組の親子の参加がありました。
  - ・3月より避難口工事のため園庭開放が開催できなかったため、近隣のコミュニティーセンターを利用して出張保育を行いました。園外での出張保育については、新しい地域利用者もあり、次年度も近隣施設を利用した事業を計画していきたいと思います。
  - ・活動内容は毎月のおたより、ホームページ、守口市広報紙にて定期的に掲載した他、各地域コミュニティーセンターや保健センターなどで掲示するなどして地域に情報発信しました。
  - ・近隣の認定こども園4か園主催で行っている「遊びの広場」については、参加者も増え人気の講座となっていますが、活動内容についてはコンセプトをきちんと持ち年間で計画していく必要があります。
- 地域とのかかわり
  - ・年間を通じて近隣高校の学生との交流（保育体験）を行いました。活動では、地域の方と一緒に栽培した守口大根を、市主催のコンクールに出品し地域の方と一緒に食体験するなど地域交流の良い機会となりました。
  - ・グループホーム、デイサービスなど地域の高齢者の方との交流や地域の秋祭りに参加しました。
  - ・近隣の遊具機械製作所と連携し、遊具の案を5歳児が考えたり、実際にできた遊具に試乗したり社会見学を行いました。
  - ・中野こども病院と連携し、地域支援として子育てに関する相談業務や子どもの健康に関する情報交換を行いました。
  - ・就学先の校長、教頭、担当教諭に実際に園に来ていただき、意見交換する機会を持ちました。5歳児は就学先の小学校5校の授業見学や交流会に参加しました。

#### ⑨苦情処理

- 第三者委員会の設置について、園のガイドブック、ホームページや園内掲示または、クラス懇談会（5月）にて保護者に知らせました。

- 苦情解決責任者を園長、苦情受付担当者を主幹保育教諭として、「意見箱」「アンケート」なども用いて保護者からの意見や要望を受付しておりましたが、対象となる苦情案件はありませんでした。
- 市が保有する隣地広場の売却に伴い、市の担当部局主催の保護者説明会を三度開催しました。隣地広場を使用（避難経路や、園児の遊び場など）について、保護者説明会や掲示物などで園の対応を伝える中、保護者の一定の理解を頂きました。

#### ⑩リスクマネジメント

- 二次避難先として使用していた隣地広場が年度途中より使用できなくなったため、園庭内にスロープを使った避難口を設置するとともに、近隣高校を二次避難先として指定し、「消防計画」の見直しを行いました。次年度は災害時を想定し、高校との合同訓練も計画します。
- 危機管理委員会を中心に「危機管理マニュアル」「保健マニュアル」の見直しを行いました。ヒヤリハット報告についても様式や職員への周知方法などを変更し、職員の危機管理の意識が高まるよう取り組みました。見直しを行ったマニュアルについては、職員会議や3月の職員研修において全職員に周知しました。
- 職員研修計画に基づき、SIDS（年2回）やアレルギー対応〈エピペン〉、感染症の対応、救命救急（AED）など、看護師が中心となり計画的に園内研修を行い安全管理に努めました。
- 備蓄品リストをもとに災害備蓄品の整備（園児引渡表・非常持ち出し袋・倉庫備品など）を行いました。（3月）
- 消防署と連携し、総合災害訓練（6月）、通報訓練（6・12月）を行いました。また、子育て支援センター利用の地域の方と合同での災害訓練（5・9・1月）を行いました。
- 警察機関と連携して職員への防犯実施研修、園児への防犯指導（2月）を行いました。

#### ⑪その他

- 園庭砂場の移設工事
- 非常口の移設
- 砂場の移設
- クッキーハウス撤去に伴うログハウスの購入